

春夜

蘇

軾

春宵一刻直千金

花清香有月陰有

歌管樓台声細細

鞦韆院落夜沈沈

【作者】蘇軾(一〇三六―一一〇一年)。北宋最盛期の詩人・文章家・政治家。北宋の文章家蘇洵の長子で、弟が蘇轍。洵・轍と合わせて三蘇という。号は

東坡。父は諸方に遊学がちで、蘇軾は十歳のころ母から学問を受けた。二十歳のとき父に従つて弟とともに都へ出、翌年兄弟そろつて進士に及第。王安石の新法に反対し何度も辺地に流されている。蘇軾は儒・仏・道のいずれにも通曉し、詩文はいうまでもなく、書画もよくした。その詩は平易流暢・変化自在で、特に七言に長じている。

【語釈】\*春宵…春夜に同じ。 \*一刻…一刻の長さには諸説(十五分〜三十分)があるが、いずれにせよ短い時間を指す。 直…値と同じ。 \*千金…大變高価であること。 \*清香…清らかな香り。 \*陰…月が朧に霞んでいること。 \*歌管…歌は歌声、管は管楽器。 \*樓台…高い建物。 \*細細…かすかに音がするさま。 \*鞦韆…ブランコ。 秋千とも書く。 漢以後は特に宮女 of 遊戯。 \*院落…屋敷内の中庭。 \*沈沈…夜が静かに更けてゆくさま。

【通釈】春の夜は一時が千金もの値打がある。花は清らかな香りを放ち月は朧にかすみ、なんともいえぬ風情である。先ほどまで歌ったり楽器を奏したりして賑やかだった高殿も、今はかすかに音が聞こえるばかり。人気のない中庭に、ひっそりとブランコが垂れて、夜は静かに更けていく。

【鑑賞】この詩の見どころは、まず起句の奇抜さにある。春の夜というものは、お金で換算すると千金になると云う。まさに言い得て妙である。以下承句・転句・結句と、その価値の実体を描いてみせる。美しい花、良い香り、朧にかすみ月。後半は、歌や笛の音が細々と聞こえて、先ほどまで春の夜を楽しんでいた雰囲気があり、最後には、娘たちが遊んでいたブランコが、月の光に照らされて、ポツンと下がっている情景が見える。